



多野 楓 《少女純潔》麻紙、岩絵具 2273 × 1818 mm

《少女純潔》
絵画表現における「現代的少女像」について
《A Girl's Innocence》
A Study on the “Modern Girl Image” – a Pictorial Representation

多野 楓
Kaede TANO

崇城大学大学院芸術研究科美術専攻
Division of Fine Art, Graduate School of Art, Sojo University



《少女純潔》麻紙、岩絵具 2273 × 1818 mm

本稿は、修了作品《少女純潔》を制作するにあたって、稿者がこれまで制作を行ってきた作品の中でも、一番思い入れのある学部時代の卒業制作にもう一度向き合い、稿者が過去の日本画での作品において表現したかったこととはいったいなんだったのか、まずこれまでモチーフとして描いてきた「少女像」について、そして表現方法について考えた。さらに稿者が追求している「少女像」をより明確化し、修了研究作品を制作する際に行った構想や、その動機などを明らかにするものである。

第一章の「現代的少女像」では、稿者がこれまでに会ってきた女の子やファッションなどを通して、あくまで自分の考える現代の少女達のイメージを「現代的少女像」としてその詳細を述べている。

次いで、本制作のテーマになった二つのきっかけについて述べている。すなわち、稿者の人生に大きな影響を与えてくれた一人の女の子についてと、稿者の学生時代に感じていたことについてである。そこから現代を生きる少女達の内面的感情や「かわいい」に対する考えなどについて自分なりの説明を述べている。

第二章の修了制作では、「1. 卒業制作」において、稿者の修了制作と大きな繋がりがある卒業制作について述べ、稿者の理想の少女像や構成、またその時点での反省点など振り返っている。続いて「2. ファッション」では、自分自身の個性を表す方法のひとつとして「ファッション」を選び、今回の制作で取り入れた「ロリータファッション」の考えやそのファッション性について述べた。「3. 修了制作について」では、3-1 卒業制作での反省点を踏まえ行った画面構成について考えたことを述べている。3-2 少女をモチーフに選んだ理由については、モデルのイメージや修了研究作品で選んだ少女、そして今回のロリータファッションのデザインについて考えた。3-3 配色と背景については画面構成と、色彩、背景に使用した百合の花との関係に言及している。

私にとって、本修了制作《少女純潔》は、これまでに制作してきた作品の集大成であり、自分自身の目指す目標に繋がったと感じている。本修了制作は改めてその事を考える好機となった作品である。